

「『九条の会』交流・懇談会」

2014年07月07日

2004年6月、作家の大江健三郎氏など9名の方々が「九条の会」を発足させ、「日本と世界の平和な未来のために、日本国憲法を守るという一点で手をつなぎ、『改憲』のくわだてを阻むため、一人ひとりができる、あらゆる努力をいまずぐはじめることを」呼びかけた。呼びかけに応じて現在、全国各地に7,500ほどの「九条を守る会」が立ち上がり、活動している。組織や党派を超えた「草の根」の市民運動は日本において、はじめてであろう。これからの社会変革運動は指令や動員を受けて動くのではなく、市民一人ひとりが自立して発言し、行動することが求められている。

7月5日、「九条の会」事務局が全国の「九条を守る会」に呼びかけ、「安倍政権の改憲暴走阻止をめざす『九条の会』交流・懇談会」を開いた。7月1日、連立与党政権が集団的自衛権の閣議決定をする前に、集会は企画されていた。閣議決定後の5日でしたから、危機意識を持って熱気溢れる集会となった。まず、事務局から「私たちの課題」が述べられた。集団的自衛権行使容認の閣議決定に対し、きっぱりと「NO」の意志表示をし、「戦争する国づくりは許さない」との声をあげる時である。全国の草の根から力を合わせ、運動と世論を盛り上げ、集団的自衛権の行使を阻む必要がある。この課題にとり組むために7つの「具体的な行動の提起」がなされた。

① 秋の臨時国会の冒頭となる2014年10月を全国統一行動月間とし、最低一回は何かの行動を起こす。② 都道府県、市区町村、あらゆる分野ごとが独立、また共同の取り組みをする。③ 活動が休止状態になっているところに働きかけ、立ち上がるように協力する。④ 活動形態は各種イベント、集会、公開学習会、署名、シール投票、チラシ、リーフレットの配布、ポスター張り出しなど、九条らしい取り組みをする。⑤ 11月24日、日比谷公会堂とその周辺で、大規模なパレードを企画する。⑥ これらの活動を「九条の会ニュース」、「九条の会メルマガ」を活用して、報告し合う。⑦ 「九条の会」事務局は署名用紙、ポスター、チラシなどを作成しサイトに掲載する。また講師などの紹介をする。

集会には北は北海道、青森から、南は大阪、徳島まで、130名の「九条を守る会」のメンバーが参加し、35名の意見や活動報告がなされた。「九条を守る会」は、それぞれの地域に応じて、工夫しながら活動を展開している。活動はユニークで、多様である。エネルギッシュな活動報告に敬服し、また、若者たちの参加が多くなってきたという嬉しい報告がかなりあった。しかし現実には、「九条を守る会」の活動にもかかわらず、閣議決定された。この事実を立て、これからの活動が議論されると思っていたが、その議論が低調であったことが多少不満であった。「九条の会」は力を結集して示威行動を起こすことは少ない。地域に根差した市民運動であるから、見えるところでは氣勢は上がっていない。今回、10月の統一行動と11月24日の大規模パレードが提案された。自主的な活動は「九条の会」の基本的な理念であるが、他との連携、共働が大切な時になっていると思う。

私は「港南区九条の会」と「港南台九条の会」のメンバーに加わっている。「港南区九条の会」は時々、学習会と集会を開いている。「港南台九条の会」は毎月例会を持ち「平和の語り部」を聞き、午後駅前で「港南台九条の会ニュース」を配布し、署名活動などを行っている。平和を実現するために、多くの方の賛同と参加を呼びかけたい。